

幹事長日誌

(2020年4月1日～2021年3月31日)

川口博史

2020年

4月1日(水) : 雨

新しい年度が始まったが、COVID-19のおかげで、人が集まる様々なイベントが中止、延期に追い込まれている。医会も例外ではなく、2月からいろいろな講演会、委員会活動も休止状態。どうなることやら。

4月14日(火) : 晴れ

鎌田会長より、医会の活動を今年いっぱい休止することにはどうかと提案があった。例会、各種委員会共に、皆で集まり準備する機会がなく、また参加者やお呼びする演者の安全確保等まだまだ問題があるので、区切りよく来年のフットケア研究会から活動を再開したいとのことであった。本日幹事会のMLにポストしたが、皆さんどのようにとらえてくれるか。

6月8日(月) : 曇りのち晴れ

今年度の総会は会員に資料を郵送して、はがきで承認を取る形にした。会計監査も郵送で執り行った。COVID-19の騒動も少し落ち着き、非常事態宣言も解除されたが、遠出を控えて三密を避ける生活がまだ続くため、早朝ドライブや撮り鉄に行くことができない。気温湿度が高くなって、マスク着用のため口まわりにあせもができそうだ。

7月5日(日) : 曇り時々晴れ

総会の議案のはがきを集計した。合計300通の返信をいただき、1号議案から5号議案まで、すべて賛成多数で可決された。会員の皆さまどうもありがとうございました。何人かの先生からは励ましのお言葉も頂戴して嬉しい限りである。力不足な幹事長ですが、もう1期よろしく願います。

9月25日(金) : 雨

COVID-19 X Psoriasis Webライブセミナー (共催：マルホ株式会社)

講演1 「令和2年度診療報酬改定による変更点とその解釈」

井上医院院長 井上奈津彦

講演2 「COVID-19を見据えたこれからの乾癬治療について」

横浜市立市民病院皮膚科 蒲原 毅

Webによる配信は医会としては初めての試みである。井上先生は川崎から、蒲原先生は横浜からの2元中継と、さながらテレビの報道番組のようだった。スタッフが見守る中、カメラを見ながらの喋りは今まで経験したことがなく、アナウンサーや芸能人はすごいと思った。COVID-19が蔓延している状況では、これからもこのスタイルで活動していくのかもしれない。参加者73名。

11月19日（木）：晴れ

神奈川県皮膚科医会共催Webセミナー（共催：鳥居薬品株式会社）
講演「アトピー性皮膚炎の新規治療薬コレクチム[®]への期待」

聖マリアンナ医科大学病院 宮垣朝光

新しいJAK阻害薬であるコレクチム軟膏がアトピー性皮膚炎に使用できるようになり、臨床の間では治療の選択肢が増えて嬉しいことである。その特徴や臨床効果、既存治療薬との使い分けなどについて、治験にもかかわっていた宮垣先生にお話をうかがった。Webだと対面で質問することができないのが残念であるが、もうしばらくはこのスタイルでの情報発信になるのであろうか。自宅でのんびりと飲食しながら視聴できるのも、またいいものであるが。

12月20日（日）：晴れ 於／Zoom

臨時常任幹事会

今季初めての常任幹事会。当面の間はwithコロナで活動する必要がありそうで、今回はZoomでの会議を開催した。アカウントを持っている高須博先生にホストをお願いして、自身としては初めてのZoom会議であった。対面ではないものの、皆さんの顔を見ながら話しをするのはメールとは違って意見も出やすく、なかなかいいのではないかと感じた。早速アカウントを取得して1月の常任幹事会もZoomで開催しよう。

12月28日（月）：曇りのち晴れ

今日の午前で診療は終わり、あとは再審査をこなせば今年の仕事は終了となる。今年は1月に還暦を迎えたところから始まり、そのあとはコロナに振り回された1年だった。医会活動はほぼ1年ストップし、毎週のようにあった会議はなくなり、患者数も減って空いた時間を有効に使いたかったのだが、県をまたぐ移動を控えたため、早朝ドライブや撮り鉄もなかなか行けず、酒量が増えた1年だった（笑）。釣りは県をまたぐ移動はないし、オープンエアで隣客との間隔も空いているので出かけていた。今年はマダイの成績はいまいちだったが、マゴチはツ抜けしたり、竿頭を取ることができたりと、少し腕を上げたのではないかとと思っている。また、10月にもう一つ大きなイベントがあったのだが、それは割愛。

2021年

1月1日（金）：晴れ

今年の親族の新年会はZoomで開催した。若い甥達はZoomはもう慣れたもの。ちびっ子へのお年玉をどうするかが課題だったが、事前に送っておいて、当日授与式を行うことで無事渡すことができた。

1月16日（土）：晴れ 於／Zoom

常任幹事会

Zoomにて開催。仕切り直しの第162回例会他、いくつかの相談事項があったが、Zoomの扱いにも少し慣れてきて、必ずしも対面でなくても会議は成立するものだと改めて感じた。ワクチン接種によって今後、新型コロナ感染がどう収まるのかまだわからないが、これからは少しずつだが医会活動も再開する予定である。ただどうしてもオンラインでの開催になるので、担当する先生たちは今までと異なる対応が必要で苦勞されることと思うが、どうぞよろしく申し上げます。でも現地に集まる時間、会場費などのコストを削減できるし、テレワーク全盛の今、医会運営も時流に乗っているなど自画自賛。唯一の欠点は、終わってからの反省会ができないことか（笑）。

1月28日(木) :曇りのち雨 於/ Zoom

編集委員会

高橋さなみ委員長になっての初会議をZoomにて。今回は例会や各種委員会の報告がほとんどないので、紙面を埋めるのに苦労しそうだとのこと。ただ、諸先輩たちの御尽力でずっと続けている年1回の神皮の発行はできれば継続したいので、例年よりも広く会員に原稿依頼をして今まで以上に楽しい会誌を作成してほしいものだ。

2月18日(木) :晴れ 於/オンライン

第15回神奈川フットケア研究会 (共催:サンファーマ株式会社)

特別講演 I 「下腿潰瘍の原因と治療 (下肢静脈瘤を含む)」

東京都立墨東病院皮膚科部長 沢田泰之

特別講演 II 「すぐに実践できる爪疾患の治療あれこれ」

慶應義塾大学病院皮膚科専任講師 齋藤昌孝

それぞれの分野のエキスパートであるお2人の先生の講演を自宅で飲食しながら聞くことができた。血管の大きさに関しては、主に筋穿通枝を境にして考えるとのこと。血管外科といっても大血管を扱う外科医が多いので、小血管を見てくれる外科医が近くにいてくれると心強いのだが。爪疾患もグライダーなど小道具を駆使して患者さんのために親身になって治療している齋藤先生の姿を思い浮かべながら拝聴した。

まさにワクチン接種が始まろうとしているが、来年の今頃は従来のような医会活動に戻っていれば良いと思った。参加者医師82名、コメディカル45名、合計127名だった。いつもより医師の参加が多かったか。小野田雅仁委員長、浅井寿子担当幹事、お疲れ様でした。

3月5日(金) :曇り 於/ Zoom

健保委員会

第162回例会のQ&Aの内容などについて相談。Zoomの扱いに慣れてきたら、なかなか便利なことがわかってきた。データを提示して、その場で修正して共有することができるので、作業も効率化しそうだ。職場でも自宅でもPCとネット環境さえ整っていればいいし、今後テレカンファランスは普及していくのではないだろうか。

3月7日(日) :曇り 於/オンライン

神奈川県皮膚科医会第162回例会

テーマ「これからのアトピー性皮膚炎」 担当幹事:松岡晃弘

講演 1 「アトピー性皮膚炎と汗」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚病態学教授 室田浩之

講演 2 「アトピー性皮膚炎 今後の展望」

NTT東日本関東病院皮膚科部長 五十嵐敦之

アトピー性皮膚炎患者ではとかく発汗量が減少していて、そのメカニズムを基礎的臨床的にお話しいただいた。また、デュピルマブの登場でアトピー性皮膚炎の治療は大きく変わったと思っていたが、今後も新規の分子生物学的製剤が発売を控えているとのこと。置いていかれないように勉強しなくては。1年ぶりの例会であったが、準備に苦労された松岡先生お疲れ様でした。参加者141名。

3月10日(水) :晴れ 於/ Zoom

神奈川県皮膚科医会第163回例会準備会

第163回以降の例会の相談。第163回例会は直前になって演者の変更があり、渡邊憲先生が苦労されたがうまくまとめてくれた。共催メーカーも来年までほぼ決まっており、このご時世にありがたいことである。

3月31日（水）：晴れ

今年度が終わった。ワクチン接種の話は取りざたされているものの具体的にはまだ何も動いていない。今年度の医会活動はほとんど休止であったが、1月からは少しずつ動き出している。去年は様々な会議が軒並み中止だったので、空いた時間を趣味に充てることができた。好きなお出かけは勿論自粛していたが、幹事長業務がないとこんなに自由時間があるのかと、ちょっと不謹慎なことも頭をよぎった（笑）。いやいや、任期は全うしますのでこれからも皆様のご協力をお願いいたします。



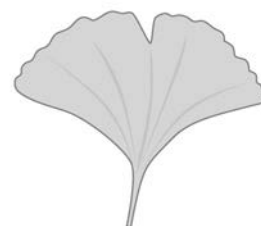
番外編：1月6日（水）の初釣り、久里浜沖にて。自己記録更新でした

委員会報告

学術委員会だより

高須 博

2020年度は、活動を行いませんでした。2021年度はアンケート調査を予定していますのでよろしくお願い致します。今後とも会員の皆様には、学術委員会の事業に継続的な御理解と御協力を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



在宅医療委員会だより

小野田雅仁

2020年度は、神皮ホームページ上の往診可否状況の更新を行いました。9月に在宅医療勉強会を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。年が明けて2021年2月に、昨年予定されていた第15回フットケア研究会が開催されました。



●第15回神奈川フットケア研究会

日時：2021年2月18日（木）

19：00～20：45（Web配信）

配信会場：ホテルキャメロットジャパン5階 ジュビリーⅢ

参加者：127名（医師82名、コメディカル45名）

共催：サンファーマ株式会社

特別講演Ⅰ：下腿潰瘍の原因と治療（下肢静脈瘤を含む）

東京都立墨東病院皮膚科部長 沢田泰之先生

特別講演Ⅱ：すぐに実践できる爪疾患の治療あれこれ

慶應義塾大学病院皮膚科専任講師 齋藤昌孝先生

昨年お招きを予定していた沢田泰之先生と齋藤昌孝先生のお話を、1年越しで伺うことができました。日常の診療に役立つお話で、とても勉強になりました。

神皮の公式行事は、新型コロナウイルスパンデミック後に休止となっていましたが、この研究会を皮切りに再開されました。Web開催のため、配信会場に参加したのは、フットケア担当の浅井寿子先生、共催のサンファーマの担当者と僕だけでした。いつもと違う雰囲気の中での開催でしたが、これからの新しい形態として、大きな第一歩を踏み出せたと思います。





委員会報告

Joy Derma Clubだより

山川有子

Joy Derma Club (JDC) は、2005年の発足以来、5月と11月の1年に2回、講演会を開催して参りました。しかし、2020年度の1年間は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、JDCの講演会も残念ながら延期となってしまいました。予定しておりました講演会は1年後に開催予定です。



委員会報告

イベント委員会だより

小林誠一郎

いいひふの日記念イベントのテーマは「爪」を予定しておりましたが、COVID-19の影響のため中止となりました。



委員会報告

皮膚の健康委員会だより

澤田俊一

本委員会で開催している「横浜小児皮膚フォーラム」は、第9回を2020年11月11日（水）に予定しておりましたが、COVID-19ウイルス感染症の影響で中止になりました。今年度も本講演会を継続したいと考えております。テーマ、日程など詳細は未定です。

地域の保育園・幼稚園・学校への皮膚疾患やスキンケアに関する啓蒙活動推進は当委員会の活動のひとつです。神奈川県下の学校あるいは学校保健研究会からの講演依頼があった場合の準備（演者のピックアップなど）を行っています。また、医師会学校医部会に参加し、学童における皮膚疾患の重要性をアピールしています。地域において我々皮膚科医の果たせる活動について企画、アイデアなどがありましたら、委員会メンバーに是非お声がけ下さい。

企画委員会だより

畑 康樹

企画委員会は例会の翌週水曜日か木曜日に9名の委員と会長・副会長・幹事長・副幹事長の5名、更に決定している当番幹事数名が集まって、終わった例会の反省・改善点の検討と次回以降の例会を如何に有意義なものにするかを話し合っています。

昨年度は第160回（2019年7月7日）「腫瘍 ～赤と黒～」(担当幹事：村上富美子先生)、第161回（2019年12月8日）「接触皮膚炎 ～手湿疹を中心に～」(担当幹事：浅井寿子先生)までは順調に行われました。それぞれの内容は神皮に掲載されていることと思いますが、どの例会も大入り満席状態が続き、今日はとても勉強になった、明日からの診療にとっても役立つと好評の声をいただいています。そして第162回（2020年3月1日予定）を無事開催すべく、2019年12月12日に企画委員会を開き、その後2020年1月18日の常任理事会でプログラムの最終チェックを行って、準備万端。例会が終了した翌週、2020年7月の第163回に向けて2020年3月4日の企画委員会招集まで進んでいました。

ところが、2月初旬の横浜港に寄港したダイヤモンド・プリンセス号コロナ騒動を皮切りに、日本全国がコロナ禍に見舞われていったのはまだ皆様の記憶に新しいことと思います。当時のメールのやり取りを見返していると、鎌田会長はまず2月20日に第162回例会を1年後に延期の決断をされました。当時はコロナ流行の動きが捉えづらく、第163回に向けての企画委員会も4月22日に延期して招集をかけたものの、非常事態宣言（第1回目）が発令されることとなった4月中旬に、鎌田会長はすべての行事を1年間先送りにするというご英断をされ、この年予定されていたすべての企画委員会は中止となった次第です。

コロナ禍において、学会のあり方もずいぶん変わりました。神奈川県皮膚科医会例会もちょうどそのあり方についてアンケートをとり、その意見を踏まえたうえで、共催いただく各社メーカーとの距離の取り方も変わってきています。これまでは担当幹事が興味あるテーマを決め、それに即した演題並びに演者を2題、2名ほど決めていました。しかし、共催いただくメーカーの意向も尊重させていただかなければならず、おおむね担当幹事が決める演題は1題となりつつあります。そんな制約が付く昨今ですが、特色ある神奈川県皮膚科医会例会を継続するため、企画委員一同、知恵を絞って担当幹事とともに、魅力ある例会を企画していきたいと思っています。

この記事に記載している時点で第162回例会は2021年3月7日に「これからのアトピー性皮膚炎」(担当幹事：松岡晃弘先生)がWebで行われ、今後は第163回（2021年7月4日）が「広い視野、多面的なアプローチ」(担当幹事：渡邊憲先生)、第164回（2021年12月5日）が「IT.コンピューター技術」、第165回（2022年3月6日）が「見逃していませんか？ 皮膚リンパ腫」(担当幹事：渡部秀憲先生)をテーマにして開催を予定しています。企画委員会もコロナ流行の動向を見ながらしばらくはWeb開催となりますが動き始めました。どうぞご期待ください。

健保委員会だより

井上奈津彦

健保の留意事項（神奈川県皮膚科医会第161回例会・ミニレクチャー）の内容を神皮27号（2020年発行）に書かせていただきました。その中で

「ゼスラン[®]は本来第二世代の抗アレルギー薬だが、現在神奈川では他の第二世代の抗アレルギー薬との併用を認めている。ただし今後は認められなくなる可能性があるため御注意いただきたい。」

と記載しました。

その件で早速ですが、今後メキタジン（ゼスラン[®]等）を第二世代の抗アレルギー薬と位置付けることとしました。つまり「メキタジン（ゼスラン[®]等）と第二世代の抗アレルギー薬の併用は原則として認めない」こととなります。

元々他科では併用を認めないため、皮膚科の再審査請求にこの件の返戻が多く、業務を圧迫していたことがあります。今回この決定に至った理由は、ある保険者から「第二世代の抗アレルギー剤の併用を認めていないのなら、ゼスランは第二世代なので併用不可では？」と再審査請求が来たことです。この質問には返す言葉がなく、やはり「正当な理由なく例外を認めるべきではない」との結論に至りました。

本件は2021年末までを周知期間として、2022年1月診療分より第二世代の抗ヒスタミン薬（いわゆる抗アレルギー薬）の2種併用を原則として認めないこととします。「原則として認めない」の意味は「認める場合がある」ということで、蕁麻疹のガイドラインにもあるように、他剤への変更、倍量処方や他剤併用（H2ブロッカーなど）、それらを試したが十分な効果が得られないなどの理由が明らかな場合には認めることとします。

令和2年度健保委員会は下記の活動を行いました。

1. 委員会

第1回健保委員会

日時：2020年4月 メールにて

議題：①令和2年度診療報酬改定の変更点と解釈について

第2回健保委員会

日時：2020年8月 メールにて

議題：①審査上の問題点に関して

第3回健保委員会

日時：2020年10月 メールにて

議題：①2年後の診療報酬改定における要望の検討

第4回健保委員会

日時：2020年12月 メールにて

議題：①新薬の審査上の取り扱いに関して

第5回健保委員会

日時：2020年12月 メールにて

議題：①診療報酬上の臨時的な取扱いの周知について

第6回健保委員会

日時：2020年2月 メール&Zoomにて

議題：①健保Q&Aの回答の検討

②審査上の問題点に関して

2. 発表

◎令和2年度診療報酬改定の変更点と解釈 2020年4月22日送付

◎①新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱い

②令和2年度診療報酬改定の解釈の変更点 2020年12月22日送付

◎第162回例会（Web） 2021年3月7日 健保Q&A（生駒）

委員会報告

広報・編集委員会だより

高橋さなみ

2020年7月、河原由恵先生の委員長のもと、「神皮」第27号を無事に発刊致しました。その後私が、「神皮」第28号より、委員長の大役を引き継がせて頂きました。そしてあらたに江川ゆり先生、岡澤ひろみ先生を委員にお迎え致しました。

2020年は、思いがけず、またたく間にパンデミックを引き起こしたCOVID-19の影響で、伝統ある神奈川県皮膚科医会の年3回の例会はすべて中止、各委員会、地域医会もほぼ開催できなくなってしまいました。通常であれば、「神皮」には例会だよりや委員会報告、地域医会だよりが掲載されますが、このような事態となり、「神皮」28号は果たして発刊できるのかと迷いました。しかしながら鎌田委員長はじめ川口幹事長、常任幹事の先生方のアドバイスもあり、伝統ある「神皮」の発刊を途切れさせるわけにはいかないと奮起し、2021年1月28日、「神皮」28号第1回編集委員会をZoomにて開催致しました。そして編集委員の先生方と一っしょに知恵を絞り、多くの先生方にご協力頂きまして、「神皮」28号にはたくさんの原稿が集まり、このように充実した紙面となりました。編集委員の先生方をはじめ、大変お忙しいなか原稿や表紙の写真等を「神皮」にご投稿下さいました先生方、ほんとうにどうもありがとうございました。例年よりも発刊が2か月遅れますが、おかげさまで無事発刊できそうです。そして毎年お世話になっているかまくら春秋社の編集者の方にも例年以上に助けて頂きました。この場を借りて御礼を申し上げます。

2020年度の活動報告

2020年5月 「神皮」第27号 第2回編集委員会 メール稟議

2020年7月5日「神皮」第27号 発刊

2021年1月28日「神皮」第28号 第1回編集委員会 Zoomにて開催